

たまくしげはこねのやまをいそげどもなほ明がたき横雲の空、あしがら山は道遠しとて、箱根路にかゝるなりけり。

ゆかしさよそなたの雲をそばだて、よそになしぬる足柄の山、いとさかしき山をくだる人の、あじもとゞまりがたし、湯坂とぞいふなる。

〔歩色葉集 阿〕足柄山

〔國花萬葉記八相模〕足柄山 同關 箱根山の北也、古への海道なり、今は箱根路を海道とせり。

〔倭訓栞中編一〕あしがらをぶね 足柄小船也、萬葉集に見えたる、又とぶさて足柄山に船木きりともいへる、此所より出るをもて名付くるにや、足柄山は相模にあり、又足輕の義を取て名とせるにや、新千載集に、足はや小舟と見えたり、

〔續歌林良材集上〕あしがら小船の事略○中

相模國風土記に云、足輕山は、此山の杉の木をとりて船につくるに、あしの軽き事、他の材にて作れる船にことなり、よりてあしがらの山と付たりと云々、とぶさてあしがら山に船木切とよめるも、萬葉のうたなり。

〔古事記中景行〕自其入幸、悉言向荒夫琉蝦夷等、亦平和山河荒神等而還上幸時、到足柄之坂本於食御糧處、其坂神化白鹿而來立、爾即以其昨遺之蒜片端待打者、中其目乃打穀也、故登立其坂三歎、詔云、阿豆麻波夜、自阿下五字以音也故號其國謂阿豆麻也。

〔古事記傳二十七〕足柄之坂本、和名抄に、相模國足柄上足柄乃郡、足柄下准郡とありて、古本には、足柄加美郡、足柄下准郡とありて、古本には、足柄字なし、其正しかるべき、凡て諸國郡郷の名、必二字につづめて書くことなる故に、字下郡に、足柄阿之郷もあり、万葉三四十に、鳥總立、足柄山爾、船木伐、七十五に、足柄乃、宮根飛超、行鶴乃九三十に、過足柄坂云々、十四五に、安思我良能乎、氏毛許乃母爾、又六安思我良能、波姑禰乃夜摩爾、